

入野小学校 校長室だより

2016. 1. 29(金) No. 35 文責：芝

この雪、誰が降らせた？

先週の火曜日（19日）に雪が少し降りました。その雪は止みましたが、それが呼び水のようになったのか、更に寒くなって日～月曜日にはかなりの大雪になりました。

降り始めの火曜日の朝、登校してきた3年生が「積もってほしい」と言っていましたので、その願いが5日後に実現したことになります。そんな願いの力で降ったのかもしれませんが、その直後に登校してきた1年生が、「この雪ねえ、私らあが降らしたがで（笑）」と、言っていましたから、その子たちの不思議な力のせいだったのかもしれませんが。

やっぱり、子どもたちは雪が積もると嬉しいようです。“南国土佐”と呼ばれる地域ですから、今回のような積もり方が珍しいこともあります。下の写真のように雪が積もった日には1年生から6年生まで、楽しそうに雪で遊んでいる姿が印象的でした。

それにしても、“厳しい”と表現していい寒さでした。気温が低いからでしょう、雪玉を作っても固まりにくいのです。そのため、投げても途中から砕けてしまいます。遠くから見るとスプレーのようでした。それから、5



年生が見せに来てくれた“つらら”は、目測ですが30cmくらいありました。

こんな寒さ、前に経験したのはいつだったのでしょうか。子どもたちには嬉しくて、大人には少し不便なこともあった雪の日でした。

10秒間の“轟音”体験は

大雪だった月曜日の翌日、少し変わった体験活動を行いました。「5、6年生が下級生の教室に行き、机を思いきり揺さぶってガタガタと大きな音を出す」という活動です。下の写真のように、後ろに写っている下級生の何人かは耳をふさいでいます。



これは、大きな地震を想定してのことです。地震が起きたら様々なものがぶつかり合い、大きな音が発生すると言われていています。以前、防災の専門家から「音に動転して適切な対応が取れないことも考えられる」ということから、今回のような体験活動を勧められ、入野小学校でも実施したというわけです。

5、6年生には10秒間頑張って机を揺さぶってもらい、かなりの“轟音”を出してもらいました。お疲れ様でした。

子どもたちの命を預かる私たちとしては、色々不安なことがあります。子どもたちがパニックになるというのも、その一つです。子どもたちが訓練や体験で「似たようなことは経験済み」という気持ちになってくれるよう、取組を進めていきたいと考えています。